



門 卷
1003

好古

好古

好古

好古

好古

好古

様さま及ど罵めのの序ぎ

様さまととやや満みのの及どととああらららら礼れい

言めととのの志しららるる。自じ然ぜん天てん然ぜん不ふ得とく

朝あさ稱しょう呼こととしし哉な揚やうのの辭おぢがが重おも重おも不ふ在ざい

してしてありあり終はおお示し様さま及ど言めとと衆しゆをを示し

序ぎ

序哉とふ舞が好筆にふべしと
但影端一の西の傍取らんを里弦
忠公阿うん找也風流なるべしと
是不小舟の梅字哉充とや
画教小背くとも再板のをりり

あへ敷意の妻が長志如くを
あま地かうば一のまやあま
畫肆稲葉氏哉祝く豊甲辰
の冬其友人阿が一

浪華 十葉畫揚書



集























の
 の
 の
 の
 の











408

